

その「物語」、の物語。

“ペログリ”的複眼思考の味わい vol.154

a taste of Ya'ssy

田中 康夫



たなかやすお ● 56年東京生まれ、作家。'00年より長野県知事を2期務める。'07年に参議院議員に当選。'09年に衆議院議員に当選。1期務める。小説『33年後のなんとなく、クリスタル』を11月半ばに河出書房新社から上梓。【公式ブログ】<http://www.nippon-dream.com/>



Ya'ssy

覚えておくべき酸辣湯麺の発祥地。赤坂の“隠れ家”料理店

今週の逸品



豚肉と野菜の冷菜
1944円

春先から晩秋まで営業する軽井沢店も昭和31年に開店。1620円の酸辣湯麺は榮林の厨房の随い料理として始まった逸品。近年に改装した1階は1人でも心置きなく味わえるカウンターとテーブル。2階は椅子席、3階は座敷の個室。“文人墨客”に愛される。主の關口和宏氏とはホテルオークラで修業中の1980年代前半からの知己。1987年に上梓の短編集『昔みたい』所収の「軽井沢千ヶ瀬西区」にも彼と相思人物が登場。

【榮林】東京都港区赤坂3-16-2 ☎03-3583-0171 ☎11:30~14:30、17:30~22:00
日曜定休 禁煙 <http://www.akasaka-eirin.jp/>

illustration by Hajime Anzai



1983年11月昭和58年の大晦日は、ホテル業界に刻まれる一日です。元旦の午前零時を迎えた瞬間、東京ヒルトンホテルからキャピトル東急ホテルへと名称変更。宿泊、料飲部門は一時的な営業中断もなく、透かさず従業員が制服を着替えて接客を行い続けた、国内外で初めての継ぎ目なき継承システムレス・テイクオーバーの事例でした。総支配人だったリチャード・ハンデル氏が移転先の西新宿へ向けて幾人かのスタッフと共に勇躍、正面玄関から出て行っ

た光景を今でも思い出します。現在はザ・キャピトルホテル東急が所在する永田町の小高い丘には嘗て、北大路魯山人と共に語り継がれる星ヶ丘茶寮が存在。東京オリンピック開催前年の1963年に東京ヒルトンホテルが開業します。所有者である東京急行電鉄と、ヒルトン・ホテルズの合併会社が発起者でした。1966年にザ・ビートルズが宿泊。爾来、エリック・クラプトン、マイケル・ジャクソン、デヴィッド・ボウイと来日公演の著名人が

好んで投宿したホテル。2006年に営業終了。2010年に高層複合ビルが竣工。現在に至ります。而してNTTドコモが本社を構える外堀通り沿いの山王パークタワーの場所は以前、在日米軍の山王ホテルでした。更に歴史を遡れば、地下にアイスクリーム場を備えたホテルとして1932年11月昭和7年に開業。4年後の二二六事件では叛乱軍が一時占拠。1946年11月昭和21年にアメリカ軍が接収。その5年後のサンフランシスコ講和条約締結後も1983年10月ま

で日本側から供与され続けます。米軍関係者以外は立入り禁止。使用通貨は米ドル。僕は一度だけ、大味なステーキと超甘なピーチメルバを御馳走になりました。明治通り沿いの南麻布に日本政府が造築した建物へニュー山王ホテルとして同年同月に移転。1996年に山王パークタワーが着工される迄の10年余り、その建造物は「敗戦ニッポン」を彷彿とさせる遺物として存在していたのです。因みに日本プロレス界の立役者だった力道山が刺傷されたナイトクラブのニューラテンクオーターは、現在はブルデンシャルタワーとなった旧ホテルニュージャパニ地階で、凄惨な火災発生後も1989年まで営業していました。粋な料亭の街だった赤坂は韓国語「朝鮮語」が飛び交う街へ変容した、と訳知り顔で慨嘆する向きが居ます。が、実は芸能に留まらず、太古から大陸や半島と表裏一体に絡み合う歴史が日本です。その意味でも赤坂は、「戦後ニッポン」を最も体現しているのだと冷静に捉え直すべきなのでしょう。僕が生まれた1956年11月昭和31年に料亭榮林から業態転換した中華料理「榮林」は、何を隠そう酸辣湯麺の発祥地。加えて写真の四川風ニクソースに浸した豚肉と胡瓜、茄子の薄切りを重ね合わせた冷菜も秀逸。覚えておくべき赤坂の「隠れ家」料理店です。